

# 特集どろんこあそび

舞鶴幼稚園は2013年に創立100周年を迎えます。

これまでの長い保育の歴史の中で、昔も今も変わらず、子どもたちの心と身体を豊かに育てるために取り組んできた活動が数多くあります。前回の季刊まいづるで特集した「リズム運動」、「竹馬」「タイヤひき」「合宿保育」「料理」「じっこ」などなど…今回はその中の「どろんこあそび」について特集を組むことにしました。寒い日も、暑い日も、雨の日も土や水に触れてどろんこあそびを楽しむ子どもたち、舞鶴幼稚園の園庭はおかげでいつも穴だらけ…ときには全園どろんこあそびで、たてわりの関わりも深めます。どろんこあそびが舞鶴幼稚園でどのように取り組まれてきたのか、どろんこあそびが子どもたちをどのように育てるのか、一緒に学び考えていきましょう。

## どろんこ遊びで育つもの

### たくましい身体

素手で泥をこねたり、丸めたり、道具を使って土を掘ったり、混ぜたり、バケツで水を運んだり…泥んこ遊びの中ではたくさん手指を使います。ただ腕力がつくだけでなく、手先の感覚や力加減、器用さなどにもつながります。

また、裸足で土を踏みしめ歩くことで土踏まずの形成が促され、歩行の安定・持久力などに繋がります。（これは前号の季刊まいづる特集「リズム運動」でもお話ししました）

そして、泥んこ遊びをしているときのしゃがんだ姿勢、これも足腰を強くします。  
何より、これらのこととが、やらされるのではなく、楽しく遊んでいるうちに自然と育まれるのです。

### 活発な脳

手や足をたくさん使うことは、頭を使うことでもあります。“手はついてた大脳”と言われ、手で受けた感触は大脳への刺激を活発にし、脳の発達を促します。また、“足は第二の心臓”と言われ、足裏で土の感触を感じて歩くことで、足裏が刺激され血流がよくなり、脳の働きを活発にします。

また、泥んこ遊びをするなかで、「どうやつたら泥だんごがうまくつくれるかな?」「さらさらな砂を作るにはどうしたらいいかな?」などと考え、工夫したり、イメージしたりすることも脳を働かせ発達させます。（これは他の遊びでも育まれるでしょう）



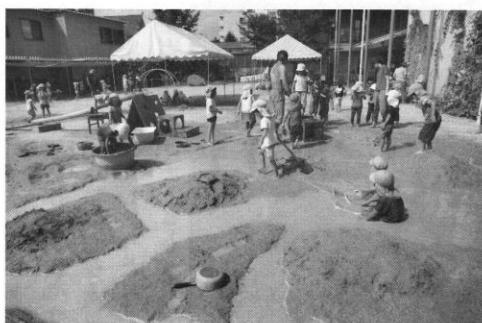
## 親しい人間関係

一人で黙々とおだんご作りもそれなりに楽しさはあります。でも戸外で泥んこ遊びをしていると、自然と友達との関わりが生まれます。ただ横にならんで土を掘つたり、一緒に山を作つたり、力を合わせて重たいバケツを運んだり…普段は遊びの好みが違う子同士でも、水や土、同じ素材を共有して遊ぶことができます。

そうして遊ぶうちに、「私はスコップで掘るね」「じやあ僕は混ぜるね」と役割分担をしたり、「お水持つてくる!」「私も手伝うよ」と協力したりする姿も見られます。

また、全園どろんこあそびでは、たてわりの関係も深まります。大きなスコップを使って力強く穴を掘る光組の姿を見たり、その穴に水を溜めて作ったどろんこ温泉に花組・月組の子ども達も飛び込んだり…そうするうちに自然と憧れの気持ちが育ち、親しみも深まります。

開放した気分で遊びこむなかで、お店やさんとお客様になつてやり取りをしたり、おだんご作りのコツを教えあつたり、時には友達がもつているスコップが欲しくてけんかになつたり…そうやって育まれた人間関係は今後の成長の土台となることでしょう。



以上のように「どろんこあそびで育つもの」を大きく4つに分けてお伝えしましたが、どろんこあそび最大の魅力は「楽しさ」です。人格形成の基盤を育む幼児期に全身を使つて、夢中になつてどろんこあそびをして、楽しんだ経験が成長の土台となるのです。そのような経験が、思春期の不安定な時期を支えてくれたり、大人になつても覚えていて気持ちが癒されたり、何かに活かしたりするようです。



水、砂、土という素材は、いつでも充分に触れることができ、自由自在に変化させることができます。水や土に触れると「冷たい」「気持ちいい」と感じたり、水加減を変えると、「サラサラ」「べちゃべちゃ」「トロトロ」など色々な感触を感じたりします。それらの感触を楽しみながら水や土に触れているうちに気持ちが安定するような、癒されるような感覚も得られます。どろんこあそびをした後（特に全園どろんこあそびで十分に遊びこんだ後）の子ども達が、穏やかに落ち着いて過ごしているのは、そのためでしよう。

また、上手・下手・できる・できないという差が無く、誰もが働きかけることで、様々な変化が起こります。たとえ、思い通りにならなくても、何度もやり直し、作り変えることができます。だからこそ、感覚を豊かにし、新しい発見や喜び、安心感や達成感が得られ、心を開放して楽しめるのです。

# ▽はなぐみ

花組では土・水・砂に触れて遊ぶことが初めての子もいる中、泥んこは楽しいなど感じ遊べるよう、様々な遊びを展開しています。

## 【感触あそび】

水や砂の感触を味わうことは泥んこ遊びの楽しさの一つです。水の気持ちよさを楽しむ子、さらさらの砂の感触を楽しむ子、水を含んだところの感触を楽しむ子など、子ども達は様々な感触を味わい遊んでいます。ホースから出る水を噴水やトンネルにすると、思わず近寄る子ども達です。水の気持ちよさや、友達や先生と一緒に遊ぶ楽しさを感じると「もう一回」と何回も何回も遊ぶ姿が見られます。また、水溜りがあると思わず入り、水しぶきを上げながらキャツキャツと笑い水の気持ちよさを楽しんでいる姿も見られます。始めは汚れることに抵抗ある子も、楽しそうに遊んでいる友達や先生の姿をみて思わず入ってしまったり、ふとした時に水溜りに入り遊びだしたり、子ども達はちょっととしたきつ



水溜りに バシャバシャ



とろとろは気持ちがいい



水の川や池を作った後はとろとろが出来ます。雨上がりの園庭にも沢山あります。気持ち悪そうと始めは避けていたのに、入ってみると気持ちがいいことを感じ、足で感触を味わっています。手でもこねこねしながら感触を楽しんでいる子もいます。全身浸かる子もいます。自分で水と土を混ぜてとろとろを作ることを楽しむ子もいます。様々な感触を味わい楽しむ子ども達です。

かけで入っていくので、そのきっかけ作りを大事にしています。水しぶきを上げてバシャバシャしている所に誰かが水溜りにつかり「気持ちいい」「温泉みたい」と言い始めると、真似してつかる子も出できます。お友達や先生と一緒に共感し、笑い声いっぱい上げながら遊ぶ姿は、泥んこ遊びを十分満喫しているように思えます。「冷たい」「気持ちいい」など気持ちを表しながら遊んでいます。

光組や月組は沢山の刺激を与えてくれる存在です。大きな池を作った後、台の上からダイナミックに水溜りに飛びこむ姿を憧れの眼差しで子ども達は見てています。すぐに真似して飛び込む子だけでなく、光組・月組がいなくなつてから真似して飛び込む子もいます。「やつてみたい！」と思う気持ちにさせてくれる存在が身近にいることで、遊びはますます広がつていています。

## 【料理づくり】



美味しいごはんができたよ

お料理作りは泥んこに触れられる楽しい遊びです。お鍋に砂や水を入れ、スコップでかき混ぜ色々な料理を作ります。カレー や ケーキ、ハンバーグなど自分が好きな食べ物に、砂や水を入れる量を調節しながら変身させていきます。砂や水は様々な物に見たてられます。素材なので、「お砂糖入れますね」「コショウかけます」「牛乳入れます」など、子ども達の遊びはどんどん広がります。一人で黙々と作っていた子も、周りのお友達も同じお料理作りをしていることに気づくと、ますます遊びは楽しいものになってしまいます。「同じだね」と共感したり、「食べませんか?」と自分の作った料理を食べさせてあげたり、お店屋さんになんか?」と自分達で作ったホットケーキ作りを始めました。水と砂を混ぜとろとろを作ると、「ホットケーキみたい」と言い、大きな大きなホットケーキ作りが始まりました。「とろとろ気持ちいい」とぺたぺた触り感触を楽しむ子、水を汲んでくる子、土を運んでくる子、お砂糖に見立てた白砂をばらばらかける子、子ども達それぞれが自分のイメージを出し合うことで、遊びが何倍にも広がります。出来上がりのホットケーキを食べても、又すぐ作れるのが泥んこ遊びの良さです。「食べちゃったー」と言つてもとろとろを集めればあつという間にホットケーキの出来上がり!何度も何度も繰り返し遊んでいくことで、泥んこ遊びの魅力に引き込まれていく子ども達です。

じっくり遊ぶ子、ダイナミックに遊ぶ子、見て楽しむ子、どろどろは嫌だけどさらさらの砂で遊べる子、水なら濡れても大丈夫な子、子ども一人ひとり姿は違います。泥んこ遊びを通して、心も身体も開放し遊ぶ楽しさを味わって欲しいと思い、泥んこ遊びの魅力を伝えて行きたいと思



「いらっしゃいませ」



「お砂糖かけます」



## ○つきぐみ

園生活にもすっかり慣れて、心も身体も年少さんの時よりちょっとぴり大きくなつた月組のどろんこ遊びはいろいろな変化や広がりが見られます。

### 【どろんだんご作り】

ただ丸く形を作るだけでなく、つるつるに磨いてつるぴかだんごができるようになつてきています。

最初はコツが掴めずにうまくいかないのですが、一度コツを掴むと子ども達の吸収力は驚くばかりですよ。

自分で作れるようになると、「どことん極める子も多く、「どの土がだんごの素に良いのか」、「さらさら砂はどこのが良いのか」などを熟知していて、教師が教えてもらうほどです。

友達と遊ぶ楽しさを感じるようになった子ども達は、教師よりも友達とのどろんこ遊びが大好きです。土や水で料理を作つて、ケーキ屋さんやレストランごっこ、お父さん、お母さん、お姉ちゃん、赤ちゃんなどの役を決めてする家族ごっこなどの中で、思い思いのどろんこ料理を作ります。ケーキ作り一つにしても、ただ形を作つるだけでなく、飾りつけや形、大きさもさまざまなどで凝つたものを作ります。

お家の料理のお手伝いが活かされている事も多いですよ。

### 【ごっこ遊び】



## 【ダイナミックなどろんこ遊び】

スコップで土を掘つて、川や池、山などを作ります。

もつと掘って川を広げようしたり、池を深くして、温泉にしようしたり、どんどん自分の身体が泥だらけになるのも気にならないでもう夢中です。

子ども達は道具を使いながら、自分のイメージするものを考えます。その中で「もっとこうしたら良いな」と考えたり、時

友達と一緒にすることが楽しいと感じるからこそ、一人よりも大勢でやる方が楽しいことを分かつてるので、ダイナミック



♪よ~!!

ドキドキするけど、ジャンプに挑戦！

下の池にたくさん水をためるぞ~



ホットケーキかな、ママ

→ これで何作ろうか~?

私(お姉ちゃん)は  
クッキーがいいな

家族ごっこ  
まっさい中～！

子どもも達を見ていると、土と水を混ぜてとろとろ作りをひたすらしている子、とろとろになつた泥をず一つと触つて心地良いと感じている子、白砂を集めて黙々とさらさら砂を作つている子、と本当に楽しみ方は千差万別です。2、3人で黙々とおだんごを作つている光景もよく目にします。言葉を交わさなくともそこには目には見えないコミュニケーションショーンを子ども達はしているのでしよう。ダイナミックな遊びやおだんご作

り、ごっこ遊びなどはもちろん楽しくて大好きですが、時にはホツとしたい時に子ども達は水と土を求めてどろんこ遊びをしている姿もあるよう思います。

いつも子ども達の身边にあるどろんこ遊びは、子ども達の楽しみであり、癒してくれる存在でもあります。

# ひかりぐみ

光組になると花組・月組時代の経験を経て、自ら遊びを進めています。憧れの光組になり、「前の光組さんみたいにしたい」という思いがあります。そして、年長になりますと「仲間」「友達」の存在は大きくなります。「友達と一緒に遊ぶから楽しい」「みんながしてたからぼくも（わたしも）してみたい！」というように友達と楽しさを共感し合いながらどんどんこを楽しめます。友達がしているのを見たり、発見したり、友達から聞いたり、教え合ったりしながら、自分たちで遊びを広げていきます。また、友達と力を合わせて遊ぶ姿も見られてきます。友達と話し、「がんばって大きな穴を掘るぞ」とはりきり、友達と一緒に穴を掘り始めます。すると、「ちょっとこつちも手伝って」と友達を呼んで、協力し合う姿が見られます。一人では出来なかつた遊びを大勢の仲間たちとすることで、さらにどんどんこの楽しさを味わっています。

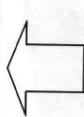
## 【大きなスコップを使って・・・】

大きなスコップは光組の子ども達だけが使える特権です。「大きなスコップを使うよ！」と言ふと子ども達は大はしゃぎです。

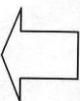
ダイビング !!!



みんなでがんばるぞー！！



お風呂に  
変身!!



穴を掘ったら…



トロトロ  
気持ちいい



いる姿にこちらも笑みがこぼれます。

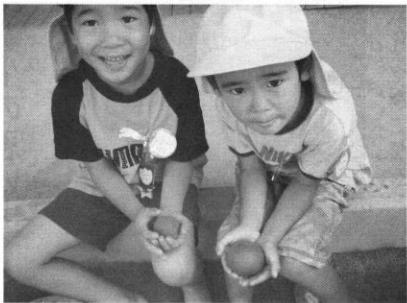
また、片付けの時にも仲間と力を合わせて片付け始めます。  
「光組さん、よろしくね。」と任せられるとさらにはりきる姿  
が見られます。

### 【つるピカどんごも仲間と一緒に!】

たくさんだんご作りを経験した子ども達のだんごは教師さえ羨ましく思う程の見事なツルピカどんごです。

崩れてはまた作り、自分たちで試行錯誤しながらピカピカ光るだんごを目指します。時には友達が作ったサラ砂を囲んで、みんなでだんご作りが始まることもあります。どこのだんごの素がいいのか、どこのサラ砂がいいか、みんなで吟味しながらピカピカだんごを作ります。光るだんごが出来た時に友達や花組さん・月組さんから「すごい!」と言われることで、さらに嬉しくなる子ども達です。

出来たつるピカだんごは何よりの宝物です。



どろんこ遊びをしている時の子ども達は本当に夢中になつて遊び込んでいます。特にだんご作りをしている時の集中力はとてもすぐく、教師が驚くほどです。子ども達に「片付けだよ。」と声を掛けても「えー、早過ぎる。」「まだ、遊びたい。」と言うほど、どろんこ遊びに夢中になつてているのだなと感じます。

最後は・・・



みんなで力を合わせて  
埋めるぞー!



大きなスコップで  
川も作るぞ!

# 卒業生の思い出 「たのしかったどろんこあそび」

小学一年生  
やまぐち あかり

小学三年生  
ささくら まりん

どろんこあそびのなかで、いちばん

すきだったのは、どろだんごづくりです。

ひかりぐみになると、かたくてつるぴかなだんごがつくれるようになり、はなぐみさんやつきぐみさんに、つくりかたをおしえたりして、いつしょにあそびました。

あとは、じめんにあなをほってどろのおふろにゆいこちゃんといつしょにつかっていると、けんせんせいがきておゆをいれてくれて、あたたかくて、どろがとろとろになりきもちよかったです。またようちえんにあそびにいったとき、ぱんついちまいになつてどろのおふろにはいりたいけど、すこしはずかしいです。

わたしは、一番に思い出したのは、ホットケーキづくりです。ピタピタヒタヒタしたどろを集めて丸いケーキをつくり、手のひらでひょうめんをきれいにならして作ります。お友だちといつしょにつくりました。それとか、ケン先生をどろでうめてあそんだり、自分にどろをつけて、おばけごっこ、先生は、びっくりしていました。かおまでぬつて口にどろが入つたりしました。でも一番心にのこつたのは、どろだんごづくりです。先生は、大きいのをつくつて、自分たちは、小さいのをつくりました。どろの水を出す所がなかなか力が入らずとてもむずかしかったです。さらさらしたどろがへんかしてつるピカになるにつれてどんどんかわいくなっていきました。

さいごの所でわれ、やりなおすのがかなしかつたです。今までうち園に来たら、どろだんごをつくつて山からころがしたりします。またどろでおもいっきりあそびたいです。

## 「土と水と太陽と」

舞鶴幼稚園前主任

安武智里



どこから見ても美しい球体、しかも陽  
にあてるとび色から銀色へ光り始める。

手のひらで回すと心地良い触感が身体を走る。迷わず頬に近づける・・・  
ニコリ。3才の頃から飽くことなく追求してきたつるびかだんご。仲  
間に見せる、「うん！ひかって」教師も羨望するほどの出来だが、  
翌朝から更なる挑戦へ。子どもたちが魅了されるどろだんごつくりは、  
どこにひきつけるパワーがあるのでしよう。それはやってみないとわ  
からない、が正直なところでしょう。

舞鶴幼稚園ではずっと昔からどろだんごを盛んに取り入れていたわ  
けではありません。子どもの育った環境と大きな関わりがありました。  
七十年代、日本経済の躍進に伴い、住まいや生活様式が利便性重視に  
なってきました。ここ鳥飼の地にあっても、近くにあつたレンゲ畑や  
子どもたちの格好のあそび場であった空地は集合住宅や団地が林立、  
車の激増で外（地域）であそぶ子どもたちを見かけることが少なくな  
りました。その頃の園庭には、ジャングルジム・シーソー・ブランコ・  
登り棒があり、人形の家もありました。土山は昭和56年に子どもたち  
の足腰を鍛えようと母の会の尽力で造られました。子どもたちは鬼ごつ  
こ・ドッヂボールを好み3才児中心に砂・泥あそびをし、たまに年長  
児がみんなで川や山やダムつくりをしていました。

現在のようにダイナミックに泥と戯れるようになったのは八十年代  
以降です。全国的に幼年期（3～10才頃）の体格は向上したが、あそ  
びきらない、育ちの弱さに警鐘が鳴り出しました。舞鶴でも転びやす

い、汚れるのを嫌う、あそびが受け身の子が増えしていました。そこで、  
子どもの生活実態を基に保育の問い合わせを行いました。「あそぶ力を  
培おう」というねらいをたて、その対策として、「マラソンより鬼ごつ  
こ」「太陽の下で土と水と親しむ」と掲げたように記憶しています。  
園庭で心ゆくまで土と水と対話する。教師自身もつるびかだんごに魅  
せられ、子どもたちと同化して夢中になつている姿を何度も目にしま  
せん。戸外で裸足になつた体験がないと最初は水や泥の感触に抵抗が  
あります。そんな時はサラサラの砂から入つていくといいでしよう。  
裸足も自分からその気になるのを待つた方がいい。他の子のあそびの  
様子を見ることから出発します。水のコップ移しかえや、ほんの少し  
の砂をコーヒーミニに落とし色が変わるのを試す・・・。始めは不  
思議そうな表情していても、ちいさな行動・じぶんでやつたおもしろ  
みが主体性のスタートライン。真っ白なパンツが何度洗つてもベージュ  
色でお母さんはこまり顔。子どもは自らの手で地（基礎）を耕してい  
ます。地面のトロトロを足の指で震わせるようになるとワンステップ  
上がり、土踏まずの形成にもプラスです。汚れたら洗えばいいと土へ  
の親しみが増し、ベタベタ、サラサラを活かした料理ごつこの段階に  
入り近くにいた仲間と共同作業にも共感にもつながる。プリンの型押  
し・ケーキ・カレーつくりにしばらくはまる。ケーキを葉っぱにのせて  
売り子しながら向こうの年長のつるびかだんごに憧れる3才児。丹  
精こめ三日がかりで作った光るだんごを山から勢いよく転がした。コ  
ロコロ転がつて真つ二つに割れた。両手に持つと大粒の涙が頬を伝う。  
「またつくればいいやん!!」の励ましが聞こえる。親指で触れながら  
白土の具合を確かめたり、山を振り返りデコボコ傾斜をにらむ。失敗  
の悔しさが、立ち直る力を育み、探求心・創造力を湧きたたせ、仲間  
とのつながりも深めていきます。

たかが土くれ、されど土くれ、千変万化の教材です。

（年齢別）組合の取り扱いにおける「年齢別」

花組(年少)	月組(年中)	光組(年長)
<p>5月・9月に遅い全園祭りで、この週(3週目)は雨の日間もあれば、それもさっさと終わる。</p> <p>ヨウガヤカーパーティー、トロトロスープパーティ、ホットケーキ、パンダーパーティー、おもちゃや金品など、玉ねぎしたてなどお題ごとに盛りだくさんです。</p>	<p>保育園のアラスク、クマのおもちゃが最も「本物」という思いやり、優しさがうつた「ラバーベンチャードーム」、玉ねぎしたてなどお題ごとに盛りだくさんです。</p> <p>お題、重量感覚も大切にしている。</p>	<p>年中は比較的大きなスコット大迷路をつくったり、大きな迷路をつくったりする。</p> <p>年からはじめている「山の問題」(トンネル)、9月からはじめている「山の問題」(トンネル)。</p> <p>身体がでてきたら、スムーズに上がり上がる。</p> <p>竹馬で登るのに挑戦</p> <p>※赤土、白砂、木の量など、こねる、ませるを通して学んでいく</p>

# ～どろんこ絵本の紹介～

雨の日や、寒い冬の日にも、絵本の世界でどろんこあそびを楽しもう♪



「どろんこ どろんこ」  
ぶん・渡辺茂男 / え・大友康夫  
発行・福音館書店



「どろだんご」  
ぶん・たなか よしゆき  
え・のさか ゆうさく  
発行・福音館書店



「こぐまちゃんのみずあそび」  
さく・わかやま けん  
発行・こぐま社



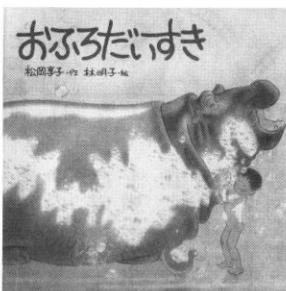
「どろんこ そうべい」  
さく・たじま ゆきひこ  
発行・童心社



「すなだんご ペロリ」  
さく・平出 衛  
発行・福音館書店



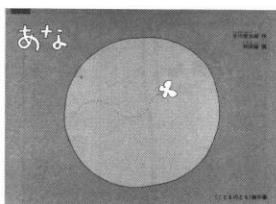
「どろんこハリー」  
ぶん・ジーン・ジホン  
え・マーガレット・ブロイ・グレアム  
やく・わたなべ しげお  
発行・福音館書店



「おふろだいすき」  
さく・松岡享子 / え・林 明子  
発行・福音館書店



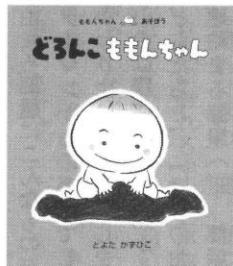
「どろんこ こぶた」  
さく・アーノルド・ローベル  
やく・岸田衿子  
発行・文化出版局



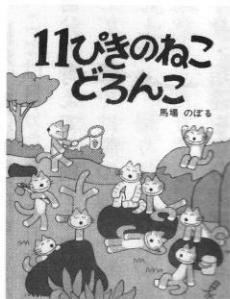
「あな」  
ぶん・谷川俊太郎 / え・和田 誠  
発行・福音館書店



「どろんこ おそうじ」  
さく・え さとう わきこ  
発行・福音館書店



「どろんこ ももししゃれ」  
さく・とよた かずひこ  
発行・童心社



「11 ひきのねこ どろんこ」  
ぶん・馬場のぼる  
発行・こぐま社